

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201328
法人名	社会福祉法人 大島福祉会
事業所名	グループホーム あしょかの里
所在地	今治市吉海町仁江262- 1
自己評価作成日	平成24年2月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家族の方や地域の方、どなたにでも気軽に来ていただけるホームにしたいと心掛けています。多くのボランティアの方の受け入れをし、入所者の方の日々の楽しみをたくさん作りたいと考えています。又地域の行事にも積極的に参加し、地域の方との絆を深めたいと思っています。地元の新鮮な魚やホームの畑で採れた旬の野菜等を使っての美味しい食事作りや買い物、その他色々な家事を入所者の方と共同でしています。入所者の方の役割作りや生きがい作りの支援を行いながら、職員も入所者と共に生き生きと楽しく暮らしたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

島四国遍路市の際には、札所に出かけ、お参りをした後、抹茶と和菓子をいただいたり、吉海町花火大会、宮窪夏祭り、酒迎えのお祭り等、利用者にとって馴染みの行事に参加して、地域の一員として地域の方々と交流されています。お盆、正月には、ご自宅に戻り、ご家族と過ごされる方も複数おられる。又、普段でもご家族と一緒に外食されたり、娘さんが毎週手作りの食事を持って来られて、居家で一緒に食べる方もある。地元で昔なじみの酒まんじゅうを持って来てくださるご家族もあり、利用者の方も馴染みの味に懐かしがられるようだ。年末には習字のボランティアの方の協力を得て年賀状作成をされており、ご家族や知人に送るよう支援されている。

翌日の献立に必要な食材を、チラシを見ながら利用者と職員で相談し、毎日買い物に行かれている。魚や果物は新鮮で美味しいにだわりのお店で購入して食材を揃えておられる。食事の時には、「今日の魚は、かれいだったね」「味付けの加減がちょうど良くておいしいね」等、利用者同士でもお話ししながら食事をされていた。事業所の畑にはブロッコリー、タマネギ、じゃがいも等を育てておられ、利用者も一緒に収穫して、食事に使用されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印	項 目	取 り 組 み の 成 果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム あしょかの里

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

村上五鈴

評価完了日

24年 2月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 今回、職員全員で理念の見直しをしました。「地域との絆を深め、笑顔あふれる自由で尊厳ある暮らし」を理念に掲げ、ケアの実践に努め居心地の良い、自由な暮らしを実現したいと考えています。	
			(外部評価) 事業所は、開設から7年目を迎えるにあたり、日々のケアについて見直しながら、すべての職員で話し合い「笑顔」と「自由な暮らし」をキーワードに作成された。ボランティアの書道の先生に事業所理念を書いていただき、居間に大きく掲示して、毎朝、職員は、利用者と一緒に唱和されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事への参加やボランティアの受け入れを積極的に行い、地域の方との交流を図っている。入所者の方と職員で買い物に行くと地域の方が気軽に声をかけて下さる。	
			(外部評価) 利用者は、地元から利用されているため、敬老会や文化祭等の地域行事参加時や買い物に出かけた際には、知り合いや友人と会うこともよくある。又、地域の方や職員の知り合いの協力を得て、三味線、ご詠歌、爪切り等のボランティアの方も継続して来てくださっている。数日後、小学生が福祉体験に来られ利用者の方とカルタ取りをすることになっており、調査訪問日は、利用者全員でカルタを取る練習をされていた。管理者は、今後、利用者がお寺の住職の説法を聞けるような機会も作っていきたいと考えておられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎年、小学校の体験学習、中学校のボランティア学習の受け入れを行っている。運営推進会議開催時、家族の方対象で認知症サポーター養成講座も行いました。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、運営状況や行事予定の報告、あしよかの里便りの発行をしている。会には、入所者の方が出席することが多く、家族さんも出席して下さる。運営推進会議で出た意見については、全職員で話し合いを行いサービス向上に努めている。	
			(外部評価) 会議には、市や地域包括支援センターの担当者、民生委員、ボランティアの方をはじめ、地域の方にも参加していただいている。ご家族には、毎回、全員に案内され、利用者も参加されている。会議時には、利用者や職員の状況・外部評価結果や目標達成計画について説明された。又、転倒や事業所内で広がった感染性胃腸炎の状況や対応等についても、詳しく説明された。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営等について、気軽に相談をし協力をお願いしている。	
			(外部評価) 9月の運営推進会議では、地域包括支援センターに講師を依頼し、ご家族を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催された。ご家族は、さらに認知症の症状や診断、治療についての知識を深められたり、DVDを見て、接する際の心がまえや具体的な接し方等についてグループワークも行われた。ご家族からは「とてもためになった」「うちは、あしよかの里でお世話になっているので安心だが、他の方にも教えてあげたい」等の感想もあった。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修会で学習し職員間で常に話し合いを行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 入居間もない頃「帰りたいたい」という気持ちになる利用者があり、気持ちが特に強くなる夕方に施錠することも検討されたようだが、職員は、ご本人に付き添って外へ出たり、根気よく対応され、現在、ご本人は落ち着いて暮らしておられる。玄関前に利用者が一人で出ているのを、隣家の方が見つけて知らせてくださったり、近所の方が事業所周辺で利用者が歩いているところを見かけ連絡して下さったこともある。骨折して入院されても、事業所で過ごすことがり八ビリと捉えて、早期退院を支援されている。管理者は「転倒しないために、職員が行ってしまうのではなく、職員は、さらに見守ることを心がけたい」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会で学習し職員間で常に話し合いを行い、虐待防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会で勉強したが、活用する機会はない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 色々な場面で話を聞き説明をして、理解していただけるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族の意見、要望は日常生活の会話や面会時又電話等で聞き職員間で話し合いを行い、運営に反映させている。 (外部評価) ご家族も近隣にお住まいの方が多く、ご家族の来訪も頻繁にあり、その都度、意見や要望を聞くようにされている。運営推進会議で意見をお聞きした際には「良くしてもらっていて感謝しています。満足しています」と感想を話してくださった。6月の家族会は多数のご家族が参加された。「お世話になっている」というご家族の心情も踏まえて、今後もご家族から意見や要望を引き出せるような働きかけの工夫を重ねていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月2回、ミーティングを行い、積極的に意見交換をし実践するように努めている。	
			(外部評価)	
			職員の入れ替わりは少なく、ミーティング時には職員は日々気づいたことやケアのアイデア等を自由に出し合っておられる。日頃から管理者は職員とのコミュニケーションを心がけておられ、又、職員同士でも相談しやすい環境が作られている。職員のスキルアップには、法人も費用面等で協力してくださり、職員は外部研修へも積極的に参加されている。研修後は、ミーティング時に研修内容を報告して、知識等を共有されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			個人面接を実施し、職員個々の悩みや要望等を聞く機会を設けている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			地域密着型サービス協会の研修会には全職員が参加し、毎月のミーティングで研修報告を行っている。又相互研修にも毎年参加している。四国フォーラムにも出来るだけ参加しており、その他良い研修があれば、希望者が参加するようにしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			相互研修に参加し、他ホームの職員の意見を聞きサービスの質の向上に取り組んでいる。毎年他の事業所でのマンドリンコンサートに出掛けていて、情報交換も行っている。又他事業所から三味線演奏に来て頂き、施設見学も相互にして交流を深めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用前に利用者に会って話しをしたり、ホームを見学してもらう等して少しでも不安をなくすように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前訪問したりホームを見学してもらおう等して家族の話を時間をかけて聞く様にしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族のニーズに応じる様に努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩とし尊重し、色々な事を教えて頂き支え合う関係を築いている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の日々の様子を知っていただく為、運営推進会議の時に発行しているお便りと運営状況報告書、会議録を家族の方全員に渡している。運営推進会議に入所者の方、家族の方にも出席をお願いしている。面会にも出来るだけ来て頂く様にし、夏祭りや誕生会にも参加をお願いしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域のミニデーサービスや特養の行事、又地域の色々な行事にも積極的に参加し交流の機会を持つようにしている。又家族や知人等多くの方の面会をお願いしている。交代で職員と買い物にも行っている。 (外部評価) 島四国遍路市の際には、札所に出かけ、お参りをした後、抹茶と和菓子をいただいたり、吉海町花火大会、宮窪夏祭り、酒迎えのお祭り等、利用者にとって馴染みの行事に参加して、地域の一員として地域の方達と交流されている。お盆、正月には、ご自宅に戻り、ご家族と過ごされる方も複数おられる。又、普段でもご家族と一緒に外食されたり、娘さんが毎週手作りの食事を持って来られて、居室で一緒に食べる方もある。地元で昔なじみの酒まんじゅうを持って来てくださるご家族もあり、利用者の方も馴染みの味に懐かしがられるようだ。年末には習字のボランティアの方の協力を得て年賀状作成をされており、ご家族や知人に出せるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) テーブルの座席を工夫している。皆さんが協力して洗濯物たたみ、掃除、調理等が楽しく出来るように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設に入所しても家族の相談に応じて、支援を行っている。又本人にも行事等への参加の声をかけている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の中から本人の希望や意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 職員の入れ替わりが少なく、職員は利用者のことを良く知っておられる。職員は、利用者との日々の会話やお若い頃の思い出話し等から、思いを汲み取れるよう努めておられる。	利用者は、ご自分から希望や意向を表すことは少ないようだ。利用者の生活歴や嗜好や習慣等についても情報を集め、利用者主体のケアの実践につなげていかれてほしい。管理者はセンター方式の様式を使ってアセスメントに取り組みたいと考えておられる。事業所の理念に沿った支援が実践できるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前訪問で本人、家族から一応詳しく話を聞くが、入所後も本人、家族との会話から情報の把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの状況を把握し、その人の能力が発揮出来るように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画の作成は本人、家族の要望を聞き職員間で話し合いをした後、全職員が各担当者の介護計画を計画作成担当者の指導を受け作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、3ヶ月ごとにモニタリングして、半年ごとに見直しておられる。芸術的なことに興味がある利用者は「絵画展を見に行く。句会に参加する」又、元気で暮らしたいという意向には、「フロアの往復8回。季節感を味わう外出をする。洗濯たみをする」等、ご本人のお好きなことを活かした支援内容に努めておられた。ご家族には、日々のケアや介護計画を見ていただきながら、要望を聞くようにされているが、「よくしてもらっている。お任せして安心している」という言葉が多いようである。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 業務日誌や介護記録、個別ノート等で情報を共有している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 天気の良い日は、ドライブに行ったり、散歩に行ったりして、出来るだけ外出の機会を作るようにしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 色々なボランティアの方々の訪問を受けたり、地域の行事には積極的に参加して楽しい暮らしの支援をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所者全員、嘱託医がかかりつけ医となっているが問題は全くない。毎週往診があり、必要時はいつでも連絡が取れる体制が出来ている。	
			(外部評価) 協力医療機関へ受診時は、職員が同行し、変わりがあれば医師からご家族に直接説明がある。眼科等、他専門医の受診は、ご家族が付き添われている。11月に事業所内で感染症胃腸炎が発生した際には、4名の利用者が発症し入院された。連携している協力医療機関の看護師が原因を探り、感染症予防対策についての緊急会議を開き、具体的な対策を講じられた。今後は法人特養の感染症予防対策についての研修会時には、職員も参加して勉強することも決められた。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関や特養の看護職員と連携を取り健康管理の支援を行っている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 医療機関と連携をとり、退院に向けての相談をしている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 事業所での看取りは難しいと考えているが、協力医療機関との連携を密にし、家族と話し合いをしながら対応して行く。	
			(外部評価) 重要事項説明書内の退居条件の中には「自立歩行できなくなる」と退居となることが示されており、法人内の特養に移行するケースが多い。現在は、利用者やご家族から事業所での看取りについて希望はないようだ。	
				管理者は、日々の利用者やご家族の会話から「最期までここで過ごしたいが、職員に迷惑はかけたくない」と思っているのではないかと感じておられる。今後、家族会で「看取り」についてもテーマに取り上げ、家族同士が話し合い、ご家族の考えをお聞きしたいと話しておられた。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修会で学習し職員間で勉強はしているが、定期的な訓練は行っていない。応急処置を現場で生かす為、救命救急講習を職員全員受けたいと考えている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は毎月定期的に行っているが、地震、水害時の避難方法や地域の協力体制については今後考えて行く必要がある。 (外部評価) 法人の隣接施設と合同で避難訓練を年2回実施しておられる。又、事業所独自の避難訓練は、出火場所、昼・夜間の想定を変えて毎月実施し、利用者も全員参加して行っておられる。	事業所では避難訓練を重ねて、裏口のスロープの必要性や避難袋、重要書類の持ち出し等も検討していきたいと考えておられる。又、運営推進会議等を活かして地域との話し合いをされたり、地域の防災組織の取り組み等の情報もお聞きして、協力し合えるような体制を作っていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの尊厳の保持を重視して日常生活を支援している。受容と共感の心を大切にしている。 (外部評価) 利用者の排泄の確認をする際等、職員は、言葉かけや対応に気を付けておられる。又、ご自分でできることはそっと見守ったり、さりげない介助に努めるよう心がけておられる。利用者同士の関係がうまくいかない場合には、双方のお話をゆっくりお聞きして互いの気持ちを大切に検討されている。又、座席等にも気を配っておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の要望を出来るだけ聞くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合を優先する事が多いが、出来るだけ本人の希望も大切にしながら支援を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的な散髪や外出時はもちろん、毎日の洋服選び等の支援を行っている。お化粧品をして出掛けることもあります。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や片付けはほとんど職員が行っているが、テーブルを拭いたり煮干の頭や腹わたを取ったりお茶の葉をパックに入れたり等出来る事は職員と一緒にしている。職員と一緒に調理を行う事もある。毎月1回弁当を作り、皆さん盛り付けを楽しまれている。 (外部評価) 翌日の献立に必要な食材を、チラシを見ながら利用者と職員で相談し、毎日買い物に行かれている。魚や果物は新鮮で美味しいこだわりのお店で購入して食材を揃えておられる。食事の時には、「今日の魚は、かれいだったね」「味付けの加減がちょうど良くておいしいね」等、利用者同士でもお話ししながら食事をされていた。事業所の畑にはブロッコリー、タマネギ、じゃがいも等を育てておられ、利用者も一緒に収穫して、食事に使用されている。以前は、調理や盛り付け、片付けも一緒にされていたが、年末に感染性胃腸炎が発生したことで、現在は、食事作りに利用者がかかわることは控えておられる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考えて献立を作り、食事量、水分量を記録している。毎月体重測定を行っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きの声掛けをし、一人ひとりに応じた介助を行っている。毎朝、義歯洗浄も行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	トイレ誘導を行い、出来るだけ失禁のないように支援している。又排便コントロールが上手くいくよう支援を行っている。	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	繊維の多い食材を考え水分補給を心掛けている。リハビリ体操やレクリエーションをして出来るだけ体を動かすようにしている。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	入所者の方の希望を聞いたり、職員間で話し合いをした結果、午前入浴にしている。体調やその日の気分を考えながら支援しているが、個々に応じた支援は難しい。	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	一人ひとりの生活習慣を大切に、自由に休息をとれるように支援している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方内容をまとめていて必要時は確認をしているが、薬の副作用等について理解は十分出来ていない。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 掃除や洗濯ものを干したりたたんだり等出来る家事を毎日の日課として行っている。買い物、散歩、ドライブ等外出の機会を出来るだけ多く作り気晴らしの支援をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は、散歩やドライブ等外出する機会を作っている。又自宅への外出、外泊等している。 (外部評価) 近くの神社へ初詣、バラ園の散策、お花見、藤棚見物等、年間を通して季節を楽しむ外出の機会を作っておられる。ドライブや買い物の帰りに、外食して帰ることもある。ラーメンがお好きな利用者が多いことから、管理者は「今度はラーメンを食べに出かけたい」と話しておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望で所持している人もいるが、色々問題があるので他の人は職員が管理を行っている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも自由に電話が出来る様になっている。年賀状は毎年全員が書いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居間からは外の景色や菜園が見えるので外を眺めながら自然に親しみ季節感を楽しむ事が出来る。季節の花を飾ったり、日差しが強い時期には日よけネットを利用して光を和らげたりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関まわりは、毎朝、利用者が掃き掃除をしてくださっている。靴箱の上には、ご家族からいただいたお花が生けてあり、居間の壁面には、利用者の習字作品が掲示されていた。浴室、トイレの入り口には、大きく表示をしておられた。食事前には、歌を歌ったり口腔体操や体を動かす体操をしておられ、午後からは、座ったままでできるソフトバレーやドッジボール等をして体を動かせるような機会を作っておられる。居間の一角には、掘りごたつがあり、昼食後、職員とおしゃべりしている利用者も見られた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居間には畳みがありそこで洗濯物をたたんだり楽しく会話をしたりしている。楽しく過ごせるようにテーブルの座席を考えている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室にはテレビやタンス、その他好みの物を置いてある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の入り口ドアには、利用者が見て分かりやすいように大きな文字で名前を貼っておられる。各居室には、洗面台が設置されており、毎朝、顔を洗ったり、歯磨きをされている。タンスの引き出しに、ご自分で「下着」「上着」と書いている方もある。お花を生けておられたり、趣味の水引細工を飾っておられる方やご家族の写真やクリスマスにもらったメッセージカード等を飾られている方もいる。利用者の希望等も踏まえベッドの位置を決めておられたり、ご自宅で行っていたように朝晩、布団を上げ下げする方もいる。職員がペットボトルで作った杖立てをベッドサイドに付け使用されている方もいる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>トイレや浴室、居室は分かり易い表示をしている。混乱や失敗が生じた時は、優しい言葉掛けを心掛けている。</p>	